

# 防災や復興、コミュニティの実践を学びたい学生大募集



## たんばし 学生対象 丹波市

いちじまちょう

兵庫県丹波市は、市島町を中心に2014年8月に豪雨に見舞われました。1時間で100mm、24時間で400mmを超える豪雨は250箇所以上の林地崩壊をもたらし、流出した土砂や流木が住宅や農業施設を破壊しました。それでも最低限の人的被害で済んだ背景には、自分が住む地域を守りたいという自助や共助の考えから、地域住民が自発的に防災対応行動を取ったことが挙げられます。その想いは、災害から4年が経とうとしている現在、消えるどころかますます強くなっています。そんな丹波市に足を運び、熱い想いをを持った住民と交流する”スタディツアー”への参加者を募集します。



✓ 災害当時の様子を講義・語り部形式で学習

✓ 日帰りから2泊3日まで内容のカスタマイズ可

✓ 住民主体の森林管理で災害の影響を少なくする取組みを体験

✓ 食で地域を元気にする！地域の良さを外部に発信する取組みを体験

### モデルプラン

#### Day 1

#### Day 2

9:00

丹波市市島町到着！平成26年8月豪雨についての講義を受けます。



12:00

災害を契機に結成されたグループの手作りランチ！豪雨災害時の炊き出しのお話も興味深いです。



15:00

市島町の復旧現場を視察。砂防ダムと治山ダムの違いが分かるかな？



17:00

日帰りコース

9:00

豪雨災害で土砂の被害を受けた農地でアジサイを栽培しているグループを訪問。企業、住民、市が団結し、災害の影響をプラスに変える取組みは丹波市ならでは！

12:00

地元の食材をふんだんに使ったランチを楽しみましょう！

15:00

山に入って、健康な森と管理が行き届いていない森を比べます。多様な人が森林と関わるためのたくさんの仕組みについてお話を聞いてみると、チェーンソーを持って活動したくなるかも？

17:00

※あくまでモデルです。ご希望に合わせて内容変更可

### 料金例

5名で参加の場合：5,000円/名（視察受入料金）

5名～10名でご参加ください。大人数のご参加で、1名あたりの料金が割引になります。

※料金は参加人数や行程によって変わります。移動手段や宿泊先などもご提案しますのでお気軽にお問合せください！

柔軟に提案します！まずはお問合せください



移動手段がない  
何を見れば自分の学習につながるのかわからない  
身体を動かして地域貢献してみたい  
スタディしたくないけど田舎暮らしを体験したい etc.  
ご相談ください。

特定非営利活動法人 SEEDS Asia (シーズアジア)※

TEL 078-766-9412 FAX 078-766-9413

EMAIL [tambacitystudytour@gmail.com](mailto:tambacitystudytour@gmail.com)

※丹波市から補助を受けてスタディツアー事業を実施しています

# 私たちがおすすめします！



兵庫県立大学大学院・減災復興政策研究科 科長・教授

むろさき よしてろ  
**室崎 益輝**

2014年の8月の豪雨によって、約50万 $m^3$ という大量の土砂が流出し、丹波市の山間部の集落は、1000戸を超える住宅が被災するなど、甚大な被害を受けました。その災害により、地域の農林業もコミュニティも崩壊の危機に立たされましたが、地域を挙げての意欲的な取り組みによって、短期間で見事な復興を成し遂げています。

この復興のプロセスと成果は、人口減少やコミュニティ衰退の危機にある集落が、いかにその危機を乗り越えるべきか、グローバル経済の荒波の中で苦悶する都市が、いかに新しい社会を築いていくべきかの、貴重なヒントや挑戦する勇気を与えてくれます。人間と自然の共生、山林と一体となる暮らしなど、未来の循環型社会のモデルを復興の中で創り上げているからです。

この復興と再生の取り組みから、多くの皆さんに学んで欲しいと思っています。コミュニティの再生、地域経済の再興、交流人口の創出のモデルとして、丹波から多くのことを学んでいただければと思います。

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授

さわだ まさひろ  
**澤田 雅浩**

丹波市は平成26年8月に豪雨に見舞われました。地滑りなど土砂災害が発生し、それは人家へも影響を及ぼしました。結果として被害は多く発生しましたが、行政による的確な対応、地域住民の助け合いなどでその影響は最低限にとどまったと思っています。それ以上に、復旧復興にも住民、行政、そして各地から駆けつけるボランティアなどの力が結集され、近年の自然災害被災地としてはきわめてスムーズかつ次世代につながるような取組が進められてきました。

今回、その実状を実体験するツアーが設けられたこと、大変喜ばしく思っています。豪雨に見舞われた際の対応をどうするべきかについて多くの示唆が得られます。その後の避難、復旧・復興プロセスは、まさに地域の底力を活かすこと、適材適所で取り組むことの大切さを実感させてくれます。山を守り、山とともに暮らすー自然と共生する被災地が復興した姿をぜひ直接体験してもらいたいと思います。



丹波市を訪問したツアー参加学生からは、「防災や復興についての学術的な学びだけでなく、人の温かさや暮らし方という視点を獲得することができた」と好評をいただいています

## 参加者の声

“丹波市の方々には本当に生き生きとしました！食だったり、自分がやっていることを心から好きなんだなと思いました。また笑顔でみなさん接してくれました。丹波市の一部しか見ることができませんでしたが、まだ秘めているものはたくさんあると思います。”

(2018年1月参加)



“豪雨災害からの復興において、ハード整備としての地滑り斜面の大規模修繕工事や森林整備を肌で感じられる見学であり、ソフト面としては住民の団結力やつながり、前を向いて進む力強さに触れられた。”

(2018年2月参加)

